

全国協議会 ニュース

2011年2月1日発行 第224号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

第6回役員選挙第2回告示

昨年10月18日付で第1回告示が行われた全国協議会の第6回役員選挙は、1月14日の立候補締切までに、別掲の通り推薦理事3名と公募理事9名の合計12名の立候補がありました。これを受け、選挙管理委員会(笠原慶一委員長)は、以下の通り1月20日に第2回告示を行いました。

理事の有資格者となります。推薦による理事の有資格者は、6月5日に開催予定の2011年度総会(岐阜県大垣市)の議決により次期理事に選任されます。

2 投票を行う推薦理事について
該当なし

3 公募理事の選挙(投票)について
公募理事は定数9名のところ、9名の立候補者がありました。役員選挙規程第11条第4項ならびに選挙細則第5条第2項の定めにより、全会員による投票を行い、最低得票数(有効投票者数の1/3)以上の得票を得た候補者を当選者とします。

4 役員選挙委員会の設置について
会長、副会長、監事、東北、北海道、近畿、中国、四国、九州につきましては立候補者がありませんでした。また関東甲信越、九州ブロック推薦理事につきましては立候補者がありませんでした。よって役員選挙委員会の設置をすべく理事会に報告しました。

5 日程
第2回告示
2011年1月20日(木)
*各会員宛て投票用紙等送付
投票期間
2011年2月16日(水)～2011年3月1日(火)
*3/1消印有効
開票日(第3回選挙管理委員会)
2011年3月6日(日)
*16時(予定)から公開にて開票作業
開票結果の発表
2011年3月7日(月)
*文書、HP、機関紙等で発表

6 投票方法
投票者無記名式による、郵送などの通信制です。
*定数分の候補者名を記入する連記投票です。

第6回役員選挙 立候補者一覧

●推薦理事候補者(定数9名)

ブロック	氏名	所属団体名
北海道(1)	加藤 弦	北海道骨髄バンク推進協会
関東甲信越(2)	荒井善正	千葉骨髄バンク推進連絡会
九州(2)	大田耕一郎	かごしま骨髄バンク推進連絡協議会

東北、関東(1)、東海北陸、近畿、中国、九州(1)は立候補なし

●公募理事候補者(定数9名) ※届出順

氏名	所在地
1 木村純子	埼玉県久喜市
2 村上忠雄	神奈川県秦野市
3 小川真理	北海道釧路市
4 野平晋作	千葉県成田市
5 菅 早苗	秋田県由利本荘市
6 柴谷春子	青森県青森市
7 川瀬和子	静岡県静岡市
8 後藤菜都美	静岡県榛原郡
9 中野勝博	岐阜県美濃加茂市

※ホームページ(URLは発行責任者名の下に記載)では、候補者のプロフィール、所信も掲載しています。

「造血細胞バンク・市民シンポジウム」アピール採択の背景について

昨年12月18日に開催された市民シンポジウムでは、大勢の患者、患者支援ボランティア、マスメディア関係者を集めて、造血細胞移植医療の環境整備を求める議論が繰り広げられました。

このシンポジウムでは、結論を出すことが求められてはなかったものの、骨髄バンクとさい帯血バンクの二つの組織の課題が浮き彫りになり、参加者、関係者の総意として、小手先の対応ではなく何らかの抜本的改革が必要であるとの認識を一つにしました。これを受けて、シンポジウムの締めくくりとして、実行委員会にて起草されたアピール(案)が参加者を代表して移植経験患者から読み上げられ、採択されるに至りました。

項目の内容は、市民社会運動のテーマとして最も難易度の高い目標の一つと捉えられる法整備について今後重点的に取り組む趣旨であり、宣言をしたこととなります。

しかしながら、その道のりは容易ならざるものであり、患者・患者家族、支援ボランティアのみならず、医療関係者や、行政・立法・司法など多くの関係者を巻き込む国民的運動として認知されなければ到底実現しえず、その過程は、過去20年間積み上げてきたものを、一度は否定、破壊すること新たな枠組みを構築する工程になります。

新たな運動目標を標榜する端緒となったアピール採択と言え、これから関係者間で議論が深まることを期待します。(実行委員 三田村真)

「患者さんの命」と「調査」は別の次元で考えて！ エコチル調査 社会運動も視野に！

昨年末、環境省と厚生労働省に対し、「子供の健康と環境に関する全国調査」(以下エコチル調査)におけるさい帯血バンク事業への影響回避について」の要望書を提出したことは、協議会ニュース223号(1月1日号)にてお知らせしたとおりです。

この要望書を受けて、1月17日に環境省総合環境政策局環境保健部環境完全課環境リスク評価室 森桂室長補佐が全国協議会事務局に来所し、野村副会長、菅事務局長ら数名で説明をお聞きしました。

環境省の説明としては、①全国に9箇所あるユニットセンターに、さい帯血バンク事業と

項目の内容は、市民社会運動のテーマとして最も難易度の高い目標の一つと捉えられる法整備について今後重点的に取り組む趣旨であり、宣言をしたこととなります。

しかしながら、その道のりは容易ならざるものであり、患者・患者家族、支援ボランティアのみならず、医療関係者や、行政・立法・司法など多くの関係者を巻き込む国民的運動として認知されなければ到底実現しえず、その過程は、過去20年間積み上げてきたものを、一度は否定、破壊すること新たな枠組みを構築する工程になります。

新たな運動目標を標榜する端緒となったアピール採択と言え、これから関係者間で議論が深まることを期待します。(実行委員 三田村真)

の両立について依頼 ②協力の両立について依頼 ③協力の両立について依頼

① 採取病院で出産する妊婦さんには、さい帯血バンクとエコチル調査の両方の協力方法について説明し、妊婦さんに判断頂くこと ② 既に予定している採取病院については変更はしない ③ 事業開始後、定期的に調査を行い、さい帯血バンク事業に影響が生じると考えられる場合には、採取病院の除外を考慮する ④ さい帯血バンク事業に支障が出ないよう、最大限努力すること ⑤

まず、参加者一同、「ボランティア団体に環境省の担当者が向いて説明する時間を作ってください」真摯な対応には

造血細胞バンク・市民シンポジウム
「骨髄バンク・さい帯血バンクの抜本的制度改革への道すじ」
～造血細胞移植推進法(案)の制定に向けた戦略～
アピール

昨年、日本さい帯血バンクネットワークは設立10周年をむかえました。来年はわが国で公的な骨髄バンクが発足して20年という節目になるとうとしています。両バンクとも今ではそれぞれ年間1000例の移植を行うまでに成長し、それは一見、きわめて順調のように見えます。しかしながら、骨髄バンクもさい帯血バンクも大きな課題が山積しています。国民皆保険のわが国にあって、骨髄バンクには相も変わらず患者負担金が存在していますし、コーディネート期間の短縮という課題も壁に突き当たっています。さい帯血バンクは慢性的な財政的赤字体質に苦しみ、このままでは最終的な経営破綻が見えている状況です。

このような中で、両バンクとも発足以来、多少の手直しは重ねてきたものの、根本的な制度の枠組みにはいっさい手を加えずに今日に至っています。両バンクとも公的な事業でありながら、国が民間事業に対し補助金で援助するという財政的には極めて不安定な図式のままに継続され続け、苦しい運営を強いられているといっても過言ではありません。

この根本的原因は国(政府)の責任と負担が曖昧なままに行ってきた当然の帰結かもしれません。わが国のこうした事業もはつきりとした根拠法を整備し、事業の明確化と財政運営の健全化を図ることが強く求められています。そこで、本日の造血細胞バンク・市民シンポジウム「骨髄バンク・さい帯血バンクの抜本的制度改革への道すじ」～造血細胞移植推進法(案)の制定に向けた戦略～を踏まえ、わが国の非血縁者間造血細胞移植のあるべき将来的な方向性について、次のとおりアピールします。

○非血縁者間造血細胞移植の20年の歩みで得たものと今望まれる姿を明確にし
○真の患者救済を目指し、持続可能な社会システムとして再構築するため
○骨髄バンク・さい帯血バンクの融合も含め、財政面、運営面に国(政府)の責任と負担を明確にした「造血細胞移植推進法(案)」の整備を求め
○造血細胞提供システムの抜本的改革のための議論をスタートさせよう
以上、一般市民はもとより、国(政府)をはじめ関係機関・団体等に訴えていきます。

2010年12月18日
造血細胞バンク・市民シンポジウム参加者一同

心からのご寄付に 感謝申し上げます

12月21日～1月20日

㈱エアネット	現金	104,200円
㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ㈱	現金	1,000円
火の国ロータクト	現金	148,077円
ダブルエスタイガー	現金	30,000円
今津 香織	現金	5,000円
アサノ ジュンコ	現金	30,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
匿名	葉書	4,000円
●白血病患者支援基金		
箱根駅伝 宮ノ下募金箱	現金	49,591円
イオン マリンピア専門館	現金	5,598円
やきとり おばこ	現金	16,200円
元祖「おたる家」ラーメン	現金	3,406円
山口 久男	現金	2,169円
渡辺材木店	現金	4,219円
●佐藤さち子患者支援基金		
倉敷中央病院 血液治療センター	現金	13,963円
野村 伸子	現金	1,000円
樋口 勇一	現金	1,000円
稲垣 和子	現金	20,000円
安藝 恭介	現金	50,000円
古賀 聡子	現金	3,000円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

敬意を表する」と伝えた上で、
④さい帯血移植が子供だけの治療ではなく、需要が増えただけ細胞数の多いさい帯血を確保する必要があり、各採取病院にも、これまで以上の協力をお願いしている状況である
⑤さい帯血とエコチル調査の両方に協力することも出来ること
⑥さい帯血とエコチル調査の両方に協力すること出来ないことだが、妊婦さん・採取病院とも、二つの事業の説明や対応を行うという事はかなり煩雑になることが予想できる
⑦採取施設は、協力を受けるのであれば、経営上、エコチル調査にも協力するというのは当然であり、それをさい帯血バンクが止めることはできないと思うが、患者の側は見通すことはできない
⑧さい帯血の採取は細胞数や衛生管理上、高度な技術を獲得した産婦人科のスタッフが、それに見合った報酬もなくボランティア精神で協力して下さっている成り立っていることを最下の段階で理解しているならば、重複する病院を選ぶことはなかったと思われまます。

3年間で集めた親子を13年間追跡して、環境が子供に与える影響を調査することは大事なことですが、両方に協力したという場合、さい帯血のデータは欠損で行うという説明に

懸念される以上、重複する採取施設については取り止めていた
だきたい。どうしても重複せざるを得ないのであれば、説得力のある理由を提示いただきた
い 以上を持ち帰り検討して下さい
下さるようお願いしました。

さい帯血の採取は細胞数や衛生管理上、高度な技術を獲得した産婦人科のスタッフが、それに見合った報酬もなくボランティア精神で協力して下さっている成り立っていることを最下の段階で理解しているならば、重複する病院を選ぶことはなかったと思われまます。

しかしながら、1月24日をもって、すでに調査が開始されたとも伺っています。なぜ患者さんたちに不安を抱かせるような強引なやり方でスタートするのか、我々の提示した要望への回答を待って、今後少しでもさい帯血事業に影響が及ぶことがないように強く改善を訴えていかなくてはならないと考えます。

箱根駅伝で9回目の啓発活動 バンクののぼりが沿道を赤く染め

2011年1月、今年も骨髓バンクののぼりが沿道を赤く染めました。

のぼりを掲げるのは、東京・千葉・埼玉・静岡の会の皆さん、ブルデンシャル生命保険の皆さん、そして全国協議会のメンバーをあわせておよそ350名。箱根駅伝での啓発活動は今回で9回目を迎える。この継続の甲斐あつてか、過去最大規模のボランティア動員数となりました。新年早々のボランティア活動にこんなにたくさんの方が参加してくださり、本当に頭の下がる思いです。



珍しくスタート直後に集団が分散し大盛り(内幸町)



一般客と共に多くののぼりで応援(内幸町)



声援にも力が入りました(御成門)



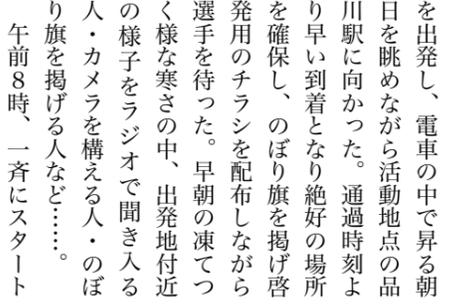
離れたら場所を取られてしまうので、必死です(品川)



例年どおり募金活動もしました(宮ノ下)



今年も一番大勢の方が参加しました(御成門)



今年の大秘案「のぼり4枚ならべ」(宮ノ下)

一人ひとりが出来ることは小さなことですが、今後とも命に関わる仕事をする者としてこの活動を続けていきたいと思えます。

●内幸町

ブルデンシャル生命保険 土井達也さん
1月2日朝8時、ブルデンシャル生命東京第二支社の社員及びその家族とお客様、総勢50名で、箱根駅伝出場校の応援団が出陣式のごとく太鼓を打ち鳴らす内幸町に集まり、骨髓バンクののぼりを持ってコース沿道に立ちました。骨髄移植を待つ患者さんに少しでも元氣になってもらいたいと始まったボランティアでありますが、お正月に、しかも寒い中、我々社員や家族だけでなく、賛同されたお客様に参加していただけたことは大変嬉しく、この活動を通じ、逆に我々が元氣をいただいているように感じます。

●御成門

全国協議会 菅早苗事務局長
御成門では午前7時からブルデンシャル生命の社員とそのご家族が続々と集合してくださり、多くの方がのぼりを手に入れた。大谷会長とともに沿道に立ちました。選手を見送った後、駅に向かうと一緒に立った方はこれから家族を連れてデイズニールランドへ行くとおっしゃっていました。貴重なお正月休みに、闘病中の患者さんを励ますために早朝から集まって下さった皆さんに心から感謝いたします。

●宮ノ下

静岡の会 小山内直樹さん
新年早々、初めて箱根駅伝啓発活動に参加させていただきました。

●品川駅前

埼玉の会 木村純子さん
1月2日、夜明け前に自宅

●田町

東京の会 中谷光子さん
1月3日・JR田町駅に12時に到着すると、いろいろな大学の駅伝チーム応援団があちこちに立っています。骨髓バンクののぼりの前には、東京・埼玉・千葉の会などのメンバーが約20人も集まっています。

●宮ノ下

宮ノ下に到着した時には、人出が多くなり始めたばかりの頃で、どれくらい盛り上がるのか、そして骨髓バンクについてどれだけ知ってもらえるだろうかと気になりました。はじめに、宮ノ下名物のシチューパン無料配布の列に並ばれた方々に、チラシ付のティッシュを配ったところ、内容を読んでくださった方も

●黒川

黒川さんは千葉骨髓バンク推進連絡会創設時からメンバーです。患者家族として骨髓バンクの充実を求めて活動され、副会長としてもピシッと会を締めつけてくれています。その黒川さんが昨年の11月3日の文化の日に、「文化の日千葉県功労者健康福祉功労」で鈴木栄治(森田健作)千葉県知事から表彰されました。千葉県での長年にわたる骨髓バンクの普及啓発活動、登録推進活動が評価されたものです。

●黒川

黒川さんは「僕の一番の功労は現会長として、千葉での活動を引っ張る梅田さんによる活動に引き込んだこと」とおっしゃいますが、太陽と月のようにお互いを照らしあつて、県内の骨髓バンクボランティア活動をこれまでリードしてくださりました。一緒に

ボランティアの仲間たち

リレー紹介 円東克典さん(千葉)の巻

円東さんは千葉骨髓バンク推進連絡会創設時からメンバーです。患者家族として骨髓バンクの充実を求めて活動され、副会長としてもピシッと会を締めつけてくれています。その円東さんが昨年の11月3日の文化の日に、「文化の日千葉県功労者健康福祉功労」で鈴木栄治(森田健作)千葉県知事から表彰されました。千葉県での長年にわたる骨髓バンクの普及啓発活動、登録推進活動が評価されたものです。

活動する私達もとても嬉しく、そして誇りに思います。事務局をご自宅に置いていた頃から一緒に活動を支えてくださった奥様と共に出席された表彰式の様子を、きつとお嬢さんも天国で喜んで見てくださいましたので、ぜひともまだよろしく願います。(黒川)



今年の大秘案「のぼり4枚ならべ」(宮ノ下)

多く、関心を持ってもらうきっかけになったのではないかと思います。また、地元商店街や観光案内所、富士屋ホテルの協力や呼びかけもあり、帰り際に多くの方が募金を寄せて下さいました。駅伝の選手たちが登山区間を想像以上の速さで走り抜けていく姿に元気を貰うとともに、地元の方々や応援に来られていた観客からの暖かい気持ちも頂き、新年からとてもいい経験をさせていただきました。また来年も時間の都合がついたときには参加したいと思っています。

たのにと探しても、位置が変更になつたらしく見当たりません。TVカメラに写らなくてもランナーを応援し、また全国の病院で、あるいは自宅で治療中の患者さんを応援する気持ちは変わりません。きつとこの気持ちは伝わるものと確信し、今年も新春の道を元気に走り抜けていくランナーを応援して来ます。



のぼりを持つ手にも力が入ります(田町)

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

●平成23年の開始にあたって
昨年、ドナー登録者が37万5千人を超え、骨髓移植件数も累計で12,498例となりました。また、昨年10月には、これまでの骨髓移植に加え、新たに末梢血幹細胞移植が導入されました。今後、コンピューターシステムの構築がされ、再来年度から全国的な展開が可能になると期待しています。今年3年ぶりにACジャパンの支援が再開されます。

●平成22年のドナー登録者数・移植数
平成22年(1~12月)の新規ドナー登録者数は36,142人で、12月末現在の有効ドナー登録者数は376,237人(累計:488,101人)となりました。新規ドナー登録者数は前年に比べて1,455人多くなり、3年続いていた減少傾向に歯止めがかかりました。県別にみると、埼玉・沖縄県が前年に比べて大きく数字を

伸ばしました。国の緊急雇用創出事業の活用等で、自治体、ボランティア団体、日本赤十字社等、各関係者の方々にご尽力いただいたことによるものです。また、平成22年の移植数は1,213件(国内ドナー⇒国内患者:1,200件、海外ドナー⇒国内患者:5件、国内ドナー⇒海外患者:8件)でした。平成21年の件数(合計:1,216件、国内ドナー⇒国内患者:1,198件、海外ドナー⇒国内患者:5件、国内ドナー⇒海外患者:13件)とほぼ同数ですが、国内ドナーから海外患者への提供が減少しました。

●平成22年のコーディネート状況について
平成22年の確認検査数は5,742件(前年6,227件、前年比92%)、最終同意は1,464件(前年1,462件、同100%)でした。コーディネート期間については、ドナーコーディネート開始から骨髓採取までの期間

骨髓バンク NOW

●平成23年度国庫補助予算案の概要について
昨年12月24日、厚生労働省の臓器移植対策室から政府の平成23年度国庫補助予算案(移植対策関連予算)の概要について連絡があり、来年度は総額4億5,199万円となり、今年度4億2,921万円に比較して2,278万円の増額(対前年105.3%)となっています。今後、国会での審議を経ることになります。

●12月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,022人、献血併行型集団登録会/1,703人、集団登録会/120人、その他/107人

●日本骨髓バンクの現状(平成22年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,339	2,952	376,237	488,101
患者登録者数	242	256	2,879	31,891
骨髓移植例数	92	82	-	12,498
20歳未満ドナー登録者	-	189	14,021 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	228 ²⁾	99 ³⁾	21,033 ⁴⁾	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~